

権威主義体制下の“民主的”プロセス - 第8期シリア人民議会選挙の政治的効果 -

著者	青山 弘之
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	現代の中東
巻	35
ページ	56-68
発行年	2003-07
出版者	日本貿易振興会アジア経済研究所
URL	http://doi.org/10.20561/00028919

権威主義体制下の“民主的”プロセス

第8期シリア人民議会選挙の政治的効果

青山弘之

はじめに

選挙制度

選挙結果

反政府勢力の動き

結び

はじめに

権威主義・独裁体制を敷く国家において、選挙はいかなる政治的効果をねらって実施されるのか？ アラブ諸国 そのほとんどが西側先進諸国のような“自由民主主義”を実現していない における最近の国政選挙に着目すると、主に二つの効果が意図されていたことに気づく。第1の効果は、為政者による権勢の誇示であり、100%の信任票が投じられたイラクのサッダーム・フサイン（*Ṣaddām Ḥusayn*：以下、フセイン）大統領の信任投票（2002年10月）を代表例としてあげることができる。第2の効果は、選挙という“民主的”プロセスを通じた権威主義支配の隠蔽であり、与党の優位を前提としたエジプト人民議会（国会）選挙（2000年10～11月）での無所属（*mustaqill*）と野党候補の当選がその典型で

ある。

シリアにおける大統領信任投票や人民議会選挙も、この二つの効果を得るために“演出”されてきたことは言うまでもない。しかし、バッシュール・アル＝アサド（*Bashshār al-Asad*）政権発足（2000年7月）後初の国政選挙である第8期人民議会選挙（2003年3月）は、従来とは若干異なった様相を呈していた。選挙は当初、政治的“多元主義”（*ta'addudiyah*）^{（注1）}の拡充をめざす政権の意気込みを示すために利用されると予想されていた。にもかかわらず、その結果は斬新さを欠き、改革志向が誇示されることはなく、また、政権への忠誠を国民に強要するような大がかりな選挙キャンペーンが繰り上げられることもなかった。

以上のような特殊性を踏まえ、本稿では、シリア人民議会の選挙制度、第8期人民議会の選挙結果、そして選挙をめぐる各政党・政治組織の動きに注目し、同選挙がシリア内政のなかでいかなる政治的意味を与えられたのかを論じる。

選挙制度

今日のシリア人民議会（任期4年）の選挙制度は、憲法（*Dustūr al-Jumhūriyah al-'Arabiyah al-Sūriyah*：1973年施行）と1973年4月14日第26立法令（*Al-Marsūm al-Tashrī'i Raqm 26 14/4/1973m - 3/12/1393h*：以下、選挙法）^(注2)に基づいている。それによると、定数は250名で、15選挙区でそれぞれ5名から32名の代表者を選出する大選挙区連記投票制を採用している（選挙法第15条 1990年4月12日第4立法令修正条項）^(注3)。

250の議席はまた、労働者・農民部門（*qiṭā' al-'ummāl wa-al-fallāḥin*：通称，a部門）と、その他の人民諸集団部門（*qiṭā' bāqī fi'at al-shab'*：通称，b部門）に分けられ、前者に過半数以上の議席が割り当てられている（憲法第53条，選挙法第14条）^(注4)。だが，“勤労者階級”を優遇するこの議席配分は現在では実質的な意味を持たず、議会における勢力を決定するうえでより重要なのは、支配政党、アラブ社会主義バース党（*Ḥizb al-Ba'th al-'Arabi al-Ishtirākī*：以下、バース党）と進歩国民戦線（*Al-Jabhah al-Waṭaniyah al-Taqaḍdumiyah*）加盟政党の代表者数である。

進歩国民戦線は、1972年3月に発足した政治同盟で、バース党、統一社会主義者党（*Ḥizb al-Waḥdawiyin al-Ishtirākīyin*）、統一社会民主主義党（*Al-Ḥizb al-Waḥdawī al-Ishtirākī al-Dimuqrāṭī*）、アラブ社会主義者運動（*Ḥarakat al-Ishtirākīyin al-'Arab*）アフマド・ムハンマド・アル＝アフマド（*Aḥmad Muḥammad al-Aḥmad*）派、同ガッサーン・アブド・アル＝アズィーズ・ウスマーン（*Ghassān 'Abd al-'Azīz*

'Uthmān）派、アラブ社会主義連合党（*Ḥizb al-Ittiḥād al-Ishtirākī al-'Arabi*）、シリア共産党（*Al-Ḥizb al-Shuyū'ī al-Sūri*）ウィサール・ファールハ（*Wiṣāl Farḥah*）派、同ユースフ・ファイサル（*Yūsuf Fayṣal*）派からなり、最高機関である中央指導部（*Al-Qiyādah al-Markaziyah*）の書記長はアサド大統領が務める^(注5)。

憲法において、バース党は「国家と社会を指導する党」（憲法第8条）として特別な地位を保障されているが、同党を含む進歩国民戦線の人民議会での優位を保障するような具体的規定は、憲法にも選挙法にも存在しない。にもかかわらず、その候補者たちは、「秘密・直接投票」（選挙法第2条）とはほど遠い投票制度ゆえに、そしておそらく、多くの反政府系消息筋が指摘するように、投票結果が改ざんされるために、その全員が当選し、バース党単独で過半数以上を、進歩国民戦線全体で3分の2以上の議席を確保できるようになっている。有権者は、投票用紙に手書きで複数の候補者名を記入するか、進歩国民戦線などが作成・配布する選挙リスト（*qā'imāt intikhābāt*）に自身が支持する別の候補者名を追記して、あるいは支持しない候補者名を削除して投票する（選挙法第33条第3項 1981年10月3日第24立法令修正条項）。しかし、投票箱のうえでの記入を余儀なくされるなど、秘密性が守られないため、バース党と進歩国民戦線に異議を唱えるような投票行動は困難なのである。

進歩国民戦線以外の代表者約80名、すなわち無所属議員も、公正なかたちで選出されているとは言えない。今日のシリアでは、『進歩国民戦線憲章』（*Mithāq al-Jabhah al-Waṭaniyah al-Taqaḍdumiyah*）基本綱領（*Al-Nizām al-Asāsi*）

第3条に明記されていない政党・政治組織の公的活動が許可されることはない^(注6)。そのため、無所属候補は単独で、ないしは他の候補者と選挙同盟 (taḥāluḥ intikhābī) を結成して、選挙に挑む。だが、100倍を超える競争率のなかで勝利するには、政権と良好な関係にあり、当局の協力が得られないしは嫌がらせを受けない 必要があり、反政府系の活動家は、たとえ立候補を受理されたとしても、当選し得ないのである。

総じて、シリア人民議会の選挙は、国民の意思や利益を媒介するという選挙本来の役割を果たしておらず、選挙戦や投票結果は、政権の政治的思惑に沿って恣意的に操作されるのである。

選挙結果

アサド政権は発足当初より、政党法制定や選挙法改正の是非に関する議論を積極的に重ね、その成果は第8期人民議会選挙に反映されると見られてきた [青山 2002a, 45-46; 2002b, 6]。だが、第7期人民議会の任期満了 (2002年12月16日) を間近に控えた2002年10月末、バアス党の最高意思決定機関、シリア地域指導部 (Al-Qiyādah al-Quṭriyah) が選挙制度改革を棚上げにするという決定を下すと、第8期人民議会選挙が“民主化”への第一歩になる、という楽観的な期待は潰えた。

選挙告示 (2003年1月16日) の10日後、すなわち、立候補届締切日の翌日にあたる2003年1月26日、アリー・ハンムード (‘Alī Hammūd) 内務大臣が「進歩国民戦線が163議席を……バアス党が131議席を占める」[Al-Ba‘th 2003;

Akḥbār al-Sharq 2003c] と発表した時点で、選挙結果に大きな変化が生じないことは明らかだった。3月2日と3日に行われた投票の結果を見ると (表を参照)、初当選議員や女性議員の増加といった“微々たる”変化を見出すこともできるが、バアス党を中心とする進歩国民戦線の優位が揺らぐことはなかった。バアス党は過半数を上回る132議席を獲得し、同党以外の戦線加盟政党は前回と同じ議席数を維持したのである。バアス党の代表者が3名減ったことで、加盟政党の議席数は164議席に減少したが、後述するように非公認組織の代表者3名が戦線メンバーとして当選したことで、獲得議席総数は前回と同じ167議席となった。

このように第8期人民議会選挙は、何ら目新しい結果を伴わなかったが、その内容を詳しく見ると、アサド政権の巧妙な支配のありようを示す幾つの特徴を見出すことができる。

1. 投票率の“低さ”

第1の特徴は、63.45%という投票率の“低さ”である。この数値に関して、内務省は選挙に対する国民の関心の大きさを示すものだと高く評価したが [Akḥbār al-Sharq 2003n]、前期選挙の投票率82.2%と比べると、約20ポイントもの落ち込みを見せていた。それだけでなく、実際の投票率はさらに低く、10%にも満たなかったと指摘する反政府系消息筋もあった [Akḥbār al-Sharq 2003s; 2003y]。

投票率が実際にどの程度だったかはともかく、アサド政権が西側先進諸国並みに“低い”数値を公表した背景には、前期選挙時のよう

第7期および第8期人民議会選挙結果

	第7期人民議会選挙	第8期人民議会選挙
定数	250人(a 部門127人 b 部門123人)	250人(a 部門127人 b 部門123人)
当選回数	初当選 当選2回以上	178人(a 部門 89人 b 部門 89人) 72人(a 部門 38人 b 部門 34人)
性別	男性 女性	220人(a 部門105人 b 部門115人)
政党別		
進歩国民戦線	167人	167 163 人 (a 部門106人 b 部門61人)
バアス党	135人	132 131 人
バアス党以外の加盟政党	32人	32 32 人
アラブ社会主義者運動アフマド派	4人	4人
アラブ社会主義者運動ウスマーン派	2人	2人
統一社会主義者党	7人	7人
統一社会民主主義党	4人	4人
アラブ社会主義連合党	7人	7人
シリア共産党ファルハ派	4人	4人
シリア共産党ファイサル派	4人	4人
その他の政党	0人	3人
アラブ民主連合党	0人	1人
シリア民族社会党		2人(a 部門 1人 b 部門 1人)
無所属	83人	82 87 人(a 部門35人 b 部門48人)
うちシリア民族社会党	1人	1人(a 部門 0人 b 部門 1人)
シリア共産主義者統一国民委員会		1人(a 部門 1人 b 部門 0人)
統一と民主主義のための連合		1人(a 部門 0人 b 部門 1人)
立候補者数	7,361人	10,405 10,423 人 (a 部門6,024 6,075 人 b 部門4,381 4,348 人)
性別	男性 女性	9,556人 849人
投票日まで選挙戦を戦った立候補者数		1,490人 (a 部門546人 b 部門944人)
投票所数	8,527カ所	10,338 10,309 カ所
18歳以上人口	8,600,071人	10,817,821 10,436,573 人
有権者数(在外シリア人、軍人、警察官、 そして法律により参政権を剥奪された犯 罪者などを除いた18歳以上人口)	7,100,071人	約8,800,000人
投票用紙を受け取った有権者数	6,691,323人	7,181,206人
投票者数	5,501,940人	4,556,475人
投票率	82.2%	63.45%
投票日	1998年11月30日～12月1日	2003年3月2～3日
投票結果発表日	1998年12月3日	2003年3月5日
開会日	1998年12月17日	2003年3月9日
閉会日	2002年12月16日	

[]: 選挙が告示された2003年1月16日にハンムード内務大臣が公表した数値。

(出所) Akhbār al-Sharq (2002c; 2002d; 2003a; 2003c; 2003h; 2003p) SANA (2003a) Al-Ba'ith (2003) Al-Nahār (2003b) などをもとに筆者作成。

に非現実的な投票率を提示するよりも“リアル”に“民主的”イメージをアピールできるという“逆転の発想”があったと解釈できる。しかしその一方で、この“演出”は、選挙を通じて改革志向を示せなかったことを取り繕うための苦肉の策だったとも批判できるのである。

2. 無所属のプレゼンス低下

第2の特徴は、無所属のプレゼンスの低下である。1990年代の人民議会選挙（第5～7期）では、投資家、商人、工場主ら、いわゆる“ヌーヴォー・リッシュ”(nouveaux riches)が無所属として当選し、第2次インフィターフ(infitāḥ: 門戸開放)、政治の“多元化”、“腐敗との闘い”(mukāfahat al-fasād)を推進する政権を積極的に後押ししてきた[Perthes 1992; *Akhbār al-Sharq* 2003m]。しかし、第8期人民議会選挙で当選した無所属候補のなかには、当局が公正な選挙を強調していたにもかかわらず^(注7)、悪評の絶えない者が少なくなかった。

例えば、ダマスカス県選挙区の無所属候補8名が結成した選挙同盟「ダマスカスの夢幻」(Ṭayf Dimashq)^(注8)の中心人物で、b部門で初当選したビジネスマン、ムハンマド・ハムシュー(Muḥammad Ḥamshū)は、400万米ドル相当の選挙資金を投じて票を買収したとの醜聞が報じられた[*Akhbār al-Sharq* 2003s; 2003y; *Al-Nahār* 2003b]。また、同じく「ダマスカスの夢幻」の一人で、a部門で初当選したウラマー(‘ulamā’), ムハンマド・アル＝ハバシュ(Muḥammad al-Ḥabash)は、義祖父である共和国ムフティー(mufti)のアフマ

ド・カフタールー(Aḥmad Kaftārū)が宗教的見解の相違を理由に出馬したことで、宗教対立や家族内の確執を国政選挙の場に持ち込んだとの印象を与えた[*Akhbār al-Sharq* 2003i; 2003m; 2003y]。

一方、アレppo市選挙区では、歯に衣着せぬ政府批判で知られていたムンズイル・アル＝ム＝サッリー(Mundhir al-Mūṣallī)^(注9)人民議会副議長が、政治犯の釈放、思想の自由、検閲の廃止を選挙公約として掲げて立候補したが、あえなく落選した[*Akhbār al-Sharq* 2003k]。

悪評の絶えない無所属候補の当選や“過激”な言説で知られた議員の落選は、アサド大統領を頂点とするバアス党と進歩国民戦線こそが政府でも議会でも改革を主導する、という政権の立場を伝えるねらいがあったとも考えられる。だが、実際には、人民議会の退行的なイメージを助長する結果となった。

3. 非公認組織の進出

第3の特徴は、進歩国民戦線に属さない四つの非公認組織、すなわち、アラブ民主連合党(Hizb al-Ittiḥād al-‘Arabī al-Dīmuqrāṭī)、統一と民主主義のための連合(Al-Tajammu’ min ajl al-Waḥdah wa-al-Dīmuqrāṭīyah)、シリア共産主義者統一国民委員会(Al-Lajnah al-Waṭāniyah li-Waḥdat al-Shuyū’iyyin al-Sūriyyin)、そしてシリア民族社会党(Al-Hizb al-Sūri al-Qawmī al-Ijtīmā’ī)が議席を獲得したことである。

アラブ民主連合党は、1988年7月にアラブ社会主義連合党を離党したユースフ・ジャイーダーニー(Yūsuf Ja’idānī)が結成した組織である。ガッサーン・アフマド・ウスマーン

(Ghassān Aḥmad ‘Uthmān) を書記長とする暫定指導部 (Al-Qiyādah al-Muwaqqatah) が発足して以降、同党は目立った動きを見せていなかったが、進歩国民戦線メンバーとして党員1名を当選させた [Al-Nahār 2003b]。

統一と民主主義のための連合は、元アラブ社会主義連合党員のムハンマド・サウワーン (Muḥammad Ṣawwān) がアラブ民主連合党暫定指導部の地位を継承すると主張して2001年1月に発足した政治組織で、事務局 (Al-Amānah al-‘Āmmah) 員のムハンマド・アーディル・ジャームース (Muḥammad ‘Ādil Jāmūs) がアレppo市選挙区 b 部門から無所属で立候補し、初当選を果たした。

シリア共産主義者統一国民委員会は、シリア共産党・『カースィユーン』グループ (Majmū‘at Qāsiyūn)^(注10) を母胎として2002年10月に結成された組織で、ハムザ・ムンズィル (Ḥamzah Mundhir) がダマスカス郊外県選挙区 a 部門から無所属で立候補し、初当選した^(注11)。なお、同委員会は「祖国と市民の尊厳」(Karāmat al-Waṭan wa-al-Muwāṭin) と称する選挙同盟を結成し、ダマスカス県選挙区、ハサカ県選挙区、イドリブ県選挙区で候補者10名を擁立したが、全員落選した [Qāsiyūn 2003; Al-Lajnah al-Waṭāniyah li-Waḥdat al-Shuyū‘iyin al-Sūriyīn 2003]。

シリア民族社会党 (1932年発足) は、“大シリア”の統一をめざすシリア民族主義政党である。バアス党との関係が悪化した1950年代半ば以降、シリア国内での活動は低迷していたが、アサド政権発足を機に公的活動を再開し、2001年7月には、党の重鎮イサーム・アル＝マハーイリー (‘Iṣām al-Maḥāyirī) を局長とするシリア政治局をダマスカスに開設し、

また同年12月と翌2002年12月には、進歩国民戦線総会へのオブザーバーとしての出席を果たした。2003年1月末、12年間にわたって人民議会議員 (無所属) として党を代表してきたバースィール・ダフドゥーフ (Bāṣil Daḥdūḥ) が除名されたことで、党活動への影響が懸念された [Azmashli 2003b; Akhbār al-Sharq 2003d; Al-Nahār 2003a]^(注12)。だが、シリア政治局のジュズィーフ・スワイド (Jūzif Suwayd) 書記長が「ダマスカスの夢幻」の一人としてダマスカス県選挙区 b 部門で初当選を果たすと同時に、ブシュラー・マスーフ (Bushrā Masūḥ) 女史とイサーム・バグディー (‘Iṣām Baghdī) がそれぞれ、ヒムス県選挙区 a 部門とハサカ県選挙区 b 部門で進歩国民戦線メンバーとして初当選し、議席を1から3に増やした。また、党を追われたダフドゥーフも、ダマスカス県選挙区 a 部門で再選を果たしたことで、シリア民族主義勢力は全体で4議席を占めるにいたった [Akhbār al-Sharq 2003r; 2003x; Azmashli 2003b]。

以上四つの組織は、近い将来、政党法の制定・施行が実現した場合に政党として正式に認められ、進歩国民戦線に加盟すると考えられている。むしろ、翼賛的な政治同盟内でのこのような“多元化”は、権威主義体制の根本に関わるような変化をもたらすものではない。しかし、これらの組織のなかでもとりわけ、バアス党と長らく“断交”状態にあったシリア民族社会党が“政治的復権”を果たせば、シリア民族主義とアラブ民族主義の“歴史的和解”としてシリア現代史に刻み込まれるだろう。

反政府勢力の動き

第8期人民議会選挙には、進歩国民戦線や親政府系の非公認組織だけでなく、反政府勢力も参加した。本節では、これらの勢力のうち、シリア国内で活動している国民民主連合 (Al-Tajammu' al-Dimuqrāṭī al-Waṭānī) とクルド系組織に着目する^(注13)。

1. 国民民主連合

国民民主連合は、アラブ社会主義連合民主党 (Ḥizb al-Ittiḥād al-Ishtirākī al-'Arabī al-Dimuqrāṭī), シリア共産党政治局 (Al-Maktab al-Siyāsī), アラブ社会主義者運動アブド・アル＝ガニー・アイヤーシュ ('Abd al-Ghanī 'Ayyāsh) 派, アラブ社会民主主義バース党 (Ḥizb al-Ba'th al-'Arabī al-Ishtirākī al-Dimuqrāṭī), アラブ革命労働者党 (Ḥizb al-'Ummāl al-Thawrī al-'Arabī) が1979年に結成した政治同盟で^(注14), アラブ社会主義連合民主党書記長のハサン・アブド・アル＝アズィーム (Ḥasan 'Abd al-'Aẓīm) がスポークスマンを務める。

2001年12月に発表した『政治計画』(Al-Barnāmaj al-Siyāsī) で自らを「抵抗運動」(mu'arāḍah) と位置づけ、公然と政治活動を展開するようになった連合は、早い時期から選挙に参加する意思を表明していた。2002年9月初めには、アブド・アル＝アズィームが、ダマスカス県選挙区、ダマスカス郊外県選挙区、アレppo市選挙区、ダルアー県選挙区、デイル・ゾール県選挙区、ラッカ県選挙区で候補者を擁立すると述べ [Akhbār al-Sharq 2002 a], また同年11月半ばには、連合の最高機関

である中央指導部 (Al-Qiyādah al-Marqazīyah) が布告 (ta'mim) を出し、「人民の排除と抑圧」を終わらせるため、選挙戦に臨むと発表したのである [Akhbār al-Sharq 2002b]。

しかし、立候補届締切日の2003年1月25日夜、国民民主連合は突如声明を出し、選挙への不参加を表明した。政党法制定と選挙法改正がなされない状況下での選挙が、バース党と進歩国民戦線に有利な結果しかもたらさず、自由と公正さを欠き、国民の意思が反映されないというのがその理由だった [Akhbār al-Sharq 2003b; 2003o]。

その後、投票日に至るまでの間、ラタキアで連合メンバーや支持者がボイコットを呼びかける文書を配布したことが、複数の消息筋によって報じられた [Lijān al-Difā' 'an Ḥuqūq al-Insān fi Sūriyā 2003; Akhbār al-Sharq 2003q; 2003u]。しかし、このような散発的な抗議行動が、具体的・体系的な活動方針に基づいていたとは考えられない。ボイコットという安易な戦術によって、国民民主連合は反政府組織としての存在を誇示することはできず、むしろ自らの無力さを露呈したのである。

2. クルド系組織

今日のシリアには10以上のクルド政党が、当局の認可を受けることのないまま、活動を行っている。そのなかでもっとも有力なのが、シリア・クルド民主同盟 (Al-Taḥāluf al-Dimuqrāṭī al-Kurdi fi Sūriyah) とシリア・クルド民主戦線 (Al-Jabhah al-Dimuqrāṭīyah al-Kurdiyāh fi Sūriyah) である。

1992年に発足したシリア・クルド民主同盟は、シリア・クルド民主党 (Al-Ḥizb al-Dimuqrāṭī

al-Kurdi fi Sūriyah : 通称, アル=パルティ Al-Party), シリア・クルド左翼党 (Al-Ḥizb al-Yasārī al-Kurdi fi Sūriyah), シリア・クルド進歩民主党 (Al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Taqaaddumī al-Kurdi fi Sūriyah), クルド・シリア民主党 (Al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdi al-Sūrī), シリア・クルド民主統一党 (Ḥizb al-Waḥdah al-Dīmuqrāṭīyah al-Kurdi fi Sūriyah : 通称, イェキーティー Yekīṭī, 1999年に加盟), シリア・クルド人民連合党 (Al-Ḥizb al-Ittiḥād al-Shaḥī al-Kurdi fi Sūriyah : 2002年加盟を凍結) からなる政治同盟である。一方, シリア・クルド民主戦線は, シリア・クルド民主党, シリア・クルド左翼党, シリア・クルド進歩民主党, シリア・クルド国民民主党 (Al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Waṭanī al-Kurdi fi Sūriyah) が2001年に結成した政治同盟である (注15)。

2003年2月初め, これら二つの組織のうち, シリア・クルド民主同盟がまず, ハサカ県選挙区, アレッポ市選挙区, アレッポ県諸地域選挙区などで候補者を擁立すると発表し, 選挙に参加する意思を表明した [Akhbār al-Sharq 2003g]。これを受け, 同月半ば, 今度は「シリアにおけるすべてのクルド政党」(Majmū' al-Aḥzāb al-Kurdiyāh fi Sūriyah) の名で声明が出され, ハサカ県選挙区で無所属に割り当てられた4議席を獲得するため, シリア・クルド民主同盟とシリア・クルド民主戦線が2名ずつ立候補者を擁立すると発表された [Al-Dīmuqrāṭī 2003b]。

シリア・クルド民主同盟とシリア・クルド民主戦線の選挙協力は, 対立と分裂によって彩られてきたシリアのクルド人の現代政治史における新時代の到来を予感させた。しかし, 2月23日, 両組織は合同会議を開き, 選挙で

の勝算がないという理由で, 立候補と投票のボイコットを決定した [Al-Dīmuqrāṭī 2003a]。

クルド系組織によるこの戦術の真意を理解するには, 英米両軍によるイラク侵略 (2003年3月20日) が秒読み段階に入っていたという特殊事情を考慮する必要がある。フセイン政権の崩壊が, イラク国内の権力バランス

とりわけ同国におけるクルド人の政治的立場に変化をもたらそうとしていたなかで, クルド系組織の動静は, アサド政権がもっとも神経をとがらせていた問題の一つだったと考えられる。このようなセンシティブな状況下での選挙戦への参加は, アサド政権がクルド系組織への政治的な締め付け強化を決意した場合, 弾圧の格好の口実とされる危険があった。その一方で, クルド人に対する抑圧が緩和される可能性も否定できず, 選挙を通じて政権と事を構えることは, 将来の政治的成果を阻害する要因ともなりかねなかったのである。

結 び

2003年3月9日, 第8期人民議会が開会し, アレッポ市選挙区 b 部門で初当選を果たしたムハンマド・ナージー・アル=アトリー (Muḥammad Nāḥī al-'Aṭrī : 内閣執務担当副首相, パス党シリア地域指導部メンバー) が, アブド・アル=カーディル・カッドウーラ ('Abd al-Qādir Qaddūrah : ダマスカス県選挙区 b 部門, 1981年初当選, 1987年に議長に就任, パス党シリア地域指導部メンバー) に代わって人民議会議長に選出された (注16)。この交代に関して, Akhbār al-Sharq (2003w) は, 前期議会で選

挙制度改革を先送りにした政権指導部に対する国民の不満を和らげ、議会の退行的イメージを払拭しようとする動きだったと分析した^(注17)。

しかし、第8期人民議会選挙の結果を踏まえると、改革志向を打ち出すことには限界があり、アサド政権は従来と異なった政治的意味を選挙に付与する必要に迫られていたに違いない。開会2日目にあたる3月10日、議事堂での演説で、アサド大統領が行った反政府勢力批判は、まさにこのような認識に基づいていたと考えられる。シリアの“バアス革命”(1963年3月8日)40周年と議会開催を祝して行われたこの演説で、大統領は次のように述べた。

「発展に……もっとも深刻な害と混乱をもたらすものは、公共の利益の名のもとに私利を覆い隠す日和見主義である……。彼ら〔反政府勢力 引用者。以下〔 〕内同じ〕は〔大統領施政方針演説を〕実行計画とみなしている。しかし、それは思考様式であり……、そこから様々な実行計画が案出されねばならない……。我々は民主主義が国民的産物だと述べた。だが彼らは、この言葉が祖国に適用すべき概念、すなわち輸入すべき概念だという……。私は常に国家と国民の関係を家族関係に例えてきた。家族の誰かが過ちを犯したとき……、その罰し方は……家族によって異なる……。しかし、その基礎には愛がある……。国家が国民を罰するときも……、その基礎には憎しみでなく……改革〔志向〕がある」〔SANA 2003b〕^(注18)。

第8期人民議会選挙を総括するなかで行わ

れたこの発言は、立候補と投票をボイコットすることで政権との直接対決を避けた反政府勢力の「日和見主義」に乗じて、その言動の「過ち」を断じ、選挙制度改革などへの政権の対応の遅れを正当化する試みだった、そう解釈することも不可能ではない。むしろ、アサド大統領の言葉が、聴衆である国民にとってどの程度の説得力をもっていたのかは検証の余地を残す。だが、これにより、為政者の権威の誇示と、権威主義の隠蔽という選挙の“古典的”な政治的効果が“低予算”で実現したことだけは確かである。すなわち、国民に忠誠を強要するような大規模な選挙キャンペーンや、政権基盤を揺るがしかねないような“政界再編”に着手することなく、政敵である反政府勢力を貶めることで政権の権威を相対的に上昇させ、また現政権による支配以外の政治的オルターナティブがないとの印象を強調することで、権威主義という現実を国民に押しつけたのである。

(注1) アサド政権は発足当初より、情報部門の改革や進歩国民戦線の活性化などを通じて、“多元主義”をアピールし、統治の正統性を高めようとしてきた。青山(2002a, 44-46)などを参照。

(注2) 選挙法はこれまで、1981年10月3日第24立法令、1986年1月9日第2立法令、1990年4月12日第4立法令、1990年4月15日第5立法令によって4度改正された。

(注3) 各選挙区名と定数は以下のとおり。ダマスカス県選挙区(29名: a部門10名, b部門19名)、ダマスカス郊外県選挙区(19名: a部門10名, b部門9名)、ヒムス県選挙区(23名: a部門11名, b部門12名)、ハマー県選挙区(22名: a部門13名, b部門9名)、アレppo市選挙区(20名: a部門7名, b部門13名)、アレppo県諸地域選挙区(32議席: a部門17名, b部門15名)、イドリブ県選挙区(18名: a部門

12名, b部門6名), ラタキア県選挙区(17名: a部門9名, b部門8名), タルトゥース県選挙区(13名: a部門6名, b部門7名), ラッカ県選挙区(8名: a部門4名, b部門4名), デイル・ゾール県選挙区(14名: a部門8名, b部門6名), ハサカ県選挙区(14名: a部門8名, b部門6名), ダルアー県選挙区(10名: a部門5名, b部門5名), スワイダ県選挙区(6名: a部門2名, b部門4名), クナイトラ県選挙区(5名: a部門2名, b部門3名)。

(注4) この規定に従い, 大統領は人民議会選挙告示に際して法令を発し, 両部門の定数を決定する。

(注5) 進歩国民戦線加盟政党については青山(2003, 67-72, 85-88, 102-103)を参照。なお, 青山(2003, 76)は, アラブ民主連合党を戦線加盟政党としているが, 今期選挙に関するシリア政府の声明やアラブ各紙の報道に従い, 本稿では同党を非公認組織とする。

(注6) 今日のシリアにおいて“結社の自由”は, 1958年7月8日に制定された第93法(Al-Qanūn Raqm 93 al-Şādir fi 8 Tammūz 1958: いわゆる結社法 Qanūn al-Jam'iyāt)によって保障されている。同法によると, 結社の公認申請・活動許可申請は社会問題労働省に対して行われ, 申請者は, 社会問題労働省が回答を出すまでの間, 公的な活動を認められる。また, 社会問題労働省が申請書類受理後60日以内に正式な回答を行わなかった場合, この結社は認可されたとみなされる。しかし, 非常事態・戒厳令といった“例外的”な法規が存在するため, このような通常法の規定が順守されることはない。

(注7) 例えば, 2003年3月2日, 当局は公正さを期するために, 投票箱監視委員を突如交替した[Azmashli 2003a; Akhbār al-Sharq 2003i]。

(注8) ハムシュー, ハバシュ, スワイド, ムハンマド・ザーヒル・ダアブル(Muḥammad Zāhir Da'būl: ビジネスマン, b部門, 初当選), ムフィー・アル=ディーン・アル=ハブブーシュ(Muḥyī al-Dīn al-Habbūsh: ビジネスマン, b部門), ナビール・ダーウド(Nabīl Dāwūd: ビジネスマン, a部門), アドナーン・アル=ダハーヒニー('Adnān al-Dakhākhīnī: ビジネスマン, b部門), ガッサーン・アル=ナッハース(Ghassān al-Naḥḥās: 教員, b部門, 初当選)からなる「ダマスカスの夢幻」は, 「知

識と行動」(al-'ilm wa-al-'amal)をスローガンとした [Ḥaydar 2003; Akhbār al-Sharq 2003i]。

(注9) ムーサッリーは, 大統領就任資格年齢を40歳から34歳(アサド大統領の当時の年齢)に引き下げた2000年6月の憲法改正を「法的根拠を欠いているため違憲である」[Ḥamīdī 2000]と述べ, 注目を浴びていた。

(注10) シリア共産党・『カースイユーン』グループについては青山(2003, 88-89)を参照。

(注11) Ḥaydar(2003)によると, 「憲章」(Al-Mithāq)という選挙同盟が4県で7名の候補者を擁立した。「憲章」とは, シリア共産党・『カースイユーン』グループの主導のもとに発表された『共産主義者尊厳憲章』(Mithāq Sharaf al-Shuyū'īyīn)をさすと思われるが, 『憲章』実施フォローアップ委員会(Lajnat Muṭāba'at Tanfidh Al-Mithāq)メンバーを務めるムンズィルがこの選挙同盟に加わっていたかどうかは不明である。

(注12) 現在, シリア民族社会党はマハーイリー派, ダフドゥーフ派 民主的潮流(Al-Tayyār al-Dīmuqrāṭī)派, ジュールジュ・アブド・アル=マシーフ(Jūrj 'Abd al-Masīḥ)派に分裂していると言われる[Akhbār al-Sharq 2003x]。

(注13) 国民民主連合やクルド系組織以外にも, シリア・アッシリア運動(Al-Ḥarakah al-Āshūriyah al-Sūriyah)のカブライル・ムワッシー・クーリーヤ(Kabra'il Muwashshī Kūriyah)がハサカ県選挙区b部門から無所属で立候補し, 落選した。また, シリア人権協会(Jam'iyat Ḥuqūq al-Insān fi Sūriyah)のアブド・アッラーフ・アル=ハリール('Abd Allāh al-Khalīl)もラッカ県選挙区から無所属で立候補したが, 3月2日, 選挙法が改正されなかったとの理由で出馬を辞退した[Akhbār al-Sharq 2003e; 2003f; 2003s]。

(注14) 国民民主連合加盟政党については青山(2003, 65, 67-68, 74-76, 86-87)を参照。

(注15) クルド系の政治組織については青山(2003, 77, 89-92)を参照。

(注16) また, ムハンマド・イサーム・アル=ジャマル(Muḥammad 'Iṣām al-Jamal: ダマスカス県選挙区b部門, パス党ダマスカス支部書記長)が副議長に, ムハンマド・ニハード・ムンシャティト

(Muḥammad Nihād Munshaṭīṭ : イドリブ県選挙区 b 部門, アラブ社会主義者運動アフマド派) とイン
アーム・アッパース (In'ām 'Abbās : タルトゥース
県選挙区 a 部門) 女史が書記に, ハバシュとフナイ
ン・ニムル (Ḥunayn Nimr : ダマスカス県選挙区 b
部門, シリア共産党ファイサル派) が幹事に選出さ
れた [*Akhbār al-Sharq* 2003v] なお, アトリーの後
任として, ムハンマド・サーフィー・アブー・ダー
ン (Muḥammad Ṣafī Abū Dān) ラタキア県知事が
内閣執務担当副首相に就任した。

(注17) カッドゥーラは, 2002年11月末に選挙法改正
と政党法制定の必要がないと断じたことで国民の不
評を買い, その選挙ポスターがダマスカス市内各所
で破かれ, 彼の名前が削除された進歩国民戦線の選
挙リストが多数投票されたという [*Akhbār al-Sharq*
2003w; Ḥamidi 2002]

(注18) なお, 2000年7月17日にアサド大統領が行った
施政方針演説の内容については, 青山 (2002a, 36-
38) を参照。また, 同演説全文については, SANA
(2000) を参照。

【文献リスト】

日本語文献

- 青山弘之 2002a . 「“ ジュムルーキーヤ ” への道 2)
バツシャル・アル＝アサドによる絶対的指導性
の顕現 」 『現代の中東』 第32号 (1月) 35-
65 .
- 2002b . 「独裁と民主の共存を模索するシリア」
『季刊アラブ』 第103号 (冬) 4-7 .
- 2003 「シリアにおける政党・政治組織 バツ
シャル・アル＝アサド政権発足以降を中心に
」 酒井啓子・青山弘之編 『中東諸国における
政権権力基盤と市民社会 研究会中間成果報告
』 日本貿易振興会アジア経済研究所 63-116 .

外国語文献

- Akhbār al-Sharq* 2002a. “Aḥzāb Mu'āriḍah Ta'tazim
Khawḍ al-Intikhābāt al-Sūriyah li-Awwal Marrah
mundhu 30 'Aman,” September 8
(<http://www.thisissyria.net/2002/09/08/syria&>

[lebanon.html](http://www.thisissyria.net/2002/09/08/syria&))

- 2002b. “Al-Tajammu' al-Waṭānī al-Dimuqrāṭī:
Nakhūḍ al-Intikhābāt li-Inhā' Istib'ād al-Sha'b,”
November 20
(<http://www.thisissyria.net/2002/11/20/syria&>
[lebanon.html](http://www.thisissyria.net/2002/11/20/syria&))
- 2002c. “Maḥaṭṭāt fi 'Umr Majlis al-Sha'b al-Sabī,”
December 19
(<http://www.thisissyria.net/2002/12/19/syria&>
[lebanon.html#2](http://www.thisissyria.net/2002/12/19/syria&))
- 2002d. “Majlis al-Sha'b al-Sūri fi Arqām,”
December 19
(<http://www.thisissyria.net/2002/12/19/syria&>
[lebanon.html#3](http://www.thisissyria.net/2002/12/19/syria&))
- 2003a. “Fatḥ Bāb al-Tarshīḥ lil-Intikhābāt al-
Niyābiyah al-Sūriyah,” January 17
(<http://www.thisissyria.net/2003/01/17/syria&>
[lebanon.html#2](http://www.thisissyria.net/2003/01/17/syria&))
- 2003b. “Al-Tajammu' al-Waṭānī al-Dimuqrāṭī
Yuqāṭī' Intikhābāt Majlis al-Sha'b al-Sūri al-
Muqbilah,” January 26
(<http://www.thisissyria.net/2003/01/26/syria&>
[lebanon.html](http://www.thisissyria.net/2003/01/26/syria&))
- 2003c. “Akthar min 10 Ālāf Murashshah li-
Khawḍ Intikhābāt Majlis al-Sha'b al-Sūri” January
27
(<http://www.thisissyria.net/2003/01/27/syria&>
[lebanon.html](http://www.thisissyria.net/2003/01/27/syria&))
- 2003d. “Hal Faṣal al-Ḥizb al-Sūri al-Qawmī
al-Ijtimā'ī Mumaththilahu fi Majlis al-Sha'b,”
January 29
(<http://www.thisissyria.net/2003/01/29/syria&>
[lebanon.html#3](http://www.thisissyria.net/2003/01/29/syria&))
- 2003e. “Murashshah Sūri Mustaqill Yansahib
Iḥtijājan 'alā 'Adam Ta'dil Qānūn al-Intikhāb,”
February 4
(<http://www.thisissyria.net/2003/02/04/syria&>
[lebanon.html#2](http://www.thisissyria.net/2003/02/04/syria&))
- 2003f. “Al-Ḥarakah al-Āshūriyah al-Sūriyah
Tushārik fi al-Intikhābāt wa'lā Tatawaqqā' Taḥqiq
“Mu'jizāt,” February 8
(<http://www.thisissyria.net/2003/02/08/syria&>

- lebanon.html#2)
- 2003g. “Al-Taḥāluf al-Dimuqrāṭi al-Kurdi Yushārik fī al-Intikhābāt wa-Yadrus Iqāmat Taḥālufāt,” February 9
(<http://www.thisissyria.net/2003/02/09/syria&lebanon.html#7>)
- 2003h. “10 Malāyin Nākhīb Yaḥuqq lahum al-Taṣwīt fī Intikhābāt Majlis al-Sha'b al-Sūrī,” February 11
(<http://www.thisissyria.net/2003/02/11/syria&lebanon.html>)
- 2003i. “Al-Murashshahūn al-Shabāb Yaṭruqūn Abwāb Majlis al-Sha'b al-Sūrī fī Dawratihī al-Thāminah,” February 19
(<http://www.thisissyria.net/2003/02/19/syria&lebanon.html#8>)
- 2003j. “Al-Shaykh “Kaftārū” Yakhūḍ al-Intikhābāt Munāfisan li-Zawj Ḥafidatihī,” February 26
(<http://www.thisissyria.net/2003/02/26/syria&lebanon.html#8>)
- 2003k. “Intikhābāt Majlis al-Sha'b: Badhakh l'lnāni ghayr Masbūq Yuthīr 'Alāmāt al-Istifhām,” March 1
(<http://www.thisissyria.net/2003/03/01/syria&lebanon.html>).
- 2003l. “Intikhābāt Majlis al-Sha'b Tabda' al-Yawm wa-Tantahī Ghadan .. wa-Taqlīṣ al-Murashshahīn ilā 4945,” March 2
(<http://www.thisissyria.net/2003/03/02/syria&lebanon.html#5>)
- 2003m. “Murashshah “Islāmi” li-Majlis al-Sha'b Yuthīr Jadalan fī al-Awsāṭ al-Dīniyah,” March 2
(<http://www.thisissyria.net/2003/03/02/syria&lebanon.html#6>)
- 2003n. “Intikhābāt Majlis al-Sha'b: Al-Ḥukūmah Tu'akkid al-Iqbāl Kabīr .. wa-Mu'arīḍūn Yushakkikūn,” March 3
(<http://www.thisissyria.net/2003/03/03/syria&lebanon.html>)
- 2003o. “‘Abd al-'Azīm: Al-Mu'araḍah Qāṭa'at al-Intikhābāt li-In'īdam al-Ḥadd al-Adnā min al-Dimuqrāṭiyah,” March 4
(<http://www.thisissyria.net/2003/03/04/syria&lebanon.html>)
- 2003p. “Intikhābāt Majlis al-Sha'b 2003 fī Arqām,” March 6
(<http://www.thisissyria.net/2003/03/06/syria&lebanon.html#2>)
- 2003q. “I'tiqāl Muwāṭinayn Da'amā Muqāṭa'at al-Intikhābāt fī al-Lādhaqīyah,” March 6
(<http://www.thisissyria.net/2003/03/06/syria&lebanon.html#3>)
- 2003r. “Lā Mufāja'at: Wazīr al-Dākhiliyah al-Sūrī Yu'lin Asmā' A'ḍā' Majlis al-Sha'b al-Jadīd,” March 6
(<http://www.thisissyria.net/2003/03/06/syria&lebanon.html>)
- 2003s. “Mu'ṭiyāt Rasmīyah Tu'akkid Ḥudūth Muqāṭa'ah Sha'biyah Saḥīqah li-Intikhābāt Majlis al-Sha'b,” March 7
(<http://www.thisissyria.net/2003/03/07/syria&lebanon.html>)
- 2003t. “Al-Munazzamah al-Āthūriyah al-Dimuqrāṭiyah Tantaqid al-Talā'ub bi-Farz al-Aṣwāt fī al-Intikhābāt,” March 8
(<http://www.thisissyria.net/2003/03/08/syria&lebanon.html#2>)
- 2003u. “Iḥtījājāt 'alā I'tiqāl Muwāṭinayn Sūriyayn Ayyadā Muqāṭa'at Intikhābāt Majlis al-Sha'b,” March 8
(<http://www.thisissyria.net/2003/03/08/syria&lebanon.html#3>)
- 2003v. “Intikhābāt Nāji al-'Aṭrī Ra'īsan li-Majlis al-Sha'b al-Sūrī al-Jadīd,” March 10
(<http://www.thisissyria.net/2003/03/10/syria&lebanon.html#6>)
- 2003w. “Al-Qiyādah al-Siyāsiyah Istab'adat Qaddūrah min Maṣībihī ba'da-mā Lamasat Naqmah Sha'biyah 'alayhī,” March 12
(<http://www.thisissyria.net/2003/03/12/syria&lebanon.html>)
- 2003x. “Al-Ḥizb al-Qawmī al-Sūrī Yu'akkid Ṭard Mumaththilīhī fī Majlis al-Sha'b li-Thalāth

- Dawrāt,” March 13
(<http://www.thisissyria.net/2003/03/13/syria&lebanon.html#2>)
- 2003y. “Shuyūkh fi Dimashq Shajja’ū al-Nākhībīn ‘alā Muqāṭa‘at Intikhābāt Majlis al-Sha'b,” March 15
(<http://www.thisisyira.net/2003/03/15/syria&lebanon.html>)
- Azmashli , Samr 2003a. “Al-Intikhābāt al-Sūriyah: Istibdāl al-Qā'imīn ‘alā Ṣanādiq al-Iqtirā’ “Ḍamānan” lil-Nazāhah.” *Al-Ḥayāh*, March 3.
- 2003b. “Al-Maḥāyirī: Inḍimām “al-Qawmī al-Sūrī” ilā “al-Jabhah” Marhūn bi-Ta'dil Niẓām-hā.” *Al-Ḥayāh*, March 12.
- Al-Ba'th* 2003. “10423 Murashshaḥan li-Majlis al-Sha'b Yatanāfasūn ‘alā 250 Maq'adan,” January 26.
- Al-Dīmuqrāṭī* 2003a. “Balāgh Ṣādīr ‘an al-Ijtīmā’ al-Mushtarak bayna Qiyādatay al-Jabhah al-Dīmuqrāṭiyah al-Kurdiyah fi Sūriyā wa-al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūriyā,” No. 351, February
(<http://kurdmrd.tripod.com/aa.doc>)
- 2003b. “Bayān ilā al-Jamāhīr al-Waṭāniyah al-Dīmuqrāṭiyah,” No. 351, February
(<http://kurdmrd.tripod.com/aa.doc>)
- Dustūr al-Jumhūriyah al-'Arabīyah al-Sūriyah
(<http://www.syria-people-council.org/const/>)
- Ḥamīdī , Ibrāhīm 2000. “Bashshār al-Ra'īs al-20 fi Istiftā' 9 Malāyīn.” *Al-Ḥayāh*, June 28.
- 2002. “Ra'īs al-Barlamān al-Sūrī li-“al-Ḥayāh”: Lā Taghyīrāt fi al-Intikhābāt al-Barlamāniyah ... wa-al-Ḥukūmah ba'da-hā .” *Al-Ḥayāh*, November 26.
- Ḥaydar, Ziyād 2003. “Sūriyā: AH'lān ‘an Awwal Taḥāluf Yakhūḍ al-Intikhābāt al-Niyābiyah al-Muqbilah.” *Al-Safīr*, February 18.
- Al-Lajnah al-Waṭāniyah li-Waḥdat al-Shuyū'iyyīn al-Sūriyīn 2003. “Bayān min al-Shuyū'iyyīn al-Sūriyīn: Karāmat al-Waṭān wa-al-Muwāṭīn fawqa Kull I'tibār.” *Qāsiyūn*, No. 191, February 6
(<http://www.kassioun.org/html/index.php?MyNo=191>)
- Lijān al-Difā' ‘an Ḥuqūq al-Insān fi Sūriyā 2003. “Taṣrīḥ Ṣuḥufī,” March 5(<http://www.ljan.de/temin.htm>)
- Al-Marsūm al-Tashrī'i Raqm 26 14/4/1973m - 3/12/1393h
(<http://208.21.175.109/RelatedArticlesGvnSPName.asp?SPName=CHRN&StructuredIndexCode=0&LawBookID=021020013247685&Year1=&Year2=&YearGorH=>)
- Mīthāq al-Jabhah al-Waṭāniyah al-Taqaddumiyah* 1972. Damascus: Al-Idārah al-Siyāsiyah lil-Jaysh wa-al-Qūwāt al-Musallaḥah.
- Al-Nahār* 2003a. “Ma'lūmāt ‘an Faṣl al-Qawmī Mumaththilahu fi al-Barlamān al-Sūrī,” January 28.
- 2003b. “Al-Intikhābāt al-Awwal fi ‘Ahd Bashshār Tastakmil al-Yawm: Dimashq Tanbahit ilā Shirā’ al-Aṣwāt wa-Ḥizbān ghayr Murakkhḥaṣayn ‘alā Qā'imāt al-Jabhah,” March 3.
- Perthes, Volker 1992. “Syria’s Parliamentary Elections: Remodeling Asad’s Political Base.” *MERIP Middle East Report*, No. 174(January-February)15–18, 35.
- Qāsiyūn* 2003. “Murashshaḥū Karāmat al-Waṭān wa-al-Muwāṭīn,” No. 192, February 20
(<http://www.kassioun.org/html/index.php>)
- SANA (Syrian Arab News Agency)2000. “Alqā al-Sayyid al-Ra'īs Bashshār al-Asad Kalimah ‘aqiba Adā'ihī al-Qasm al-Dustūrī amāma al-Jalsah al-Istithnā'iyah li-Majlis al-Sha'b qabla Ḥuḥr al-Yawm fi-mā Yali Naṣṣ-hā,” July 17
(<http://www.sana-syria.com/The%20Arabic/News%20Syria/b-assad1.htm>)
- 2003a. “Wazīr al-Dākhiyah / I'lān Nata'ij,” March 5
(<http://www.sana-syria.com/arabic/headlines/5.3/home%20minister.htm>)
- 2003b. “Al-Sayyid al-Ra'īs / Kalimah,” March 10
(<http://www.sana-syria.com/The%20Arabic/News%20Syria/al%20asad.htm>)

(あおやま ひろゆき / 地域研究第2部)